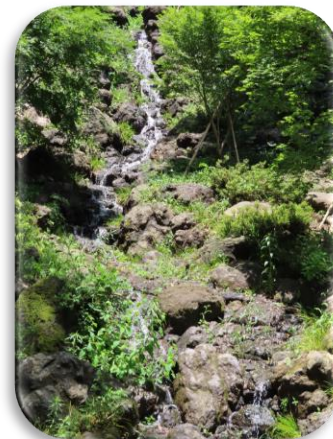


都立芝公園「もみじ谷」のご案内

令和2年に修復工事が完了し、景観が復元された人工の溪谷。大小の自然石を組み合わせた岩場と周囲の樹林を取り合わせた景観は、深山幽谷を想わせ、高さ10mの岩場から落下する滝は壮観です。

もみじ谷には、多種多様なモミジが植えられており、あたり一面美しい景観を楽しむことができます。東京タワーが建つ場所には名前の由来となった「紅葉山」があったと言われています。



イロハモミジ

葉の切れ込みを「いろは…」と数えたことが名前の由来。5〜7に切れ込む。



オオモミジ

イロハモミジより葉が大きく切れ込みは7〜9で、ふちのギザギザは小さい。



ノムラモミジ

オオモミジの品種で、若葉の時から葉が赤紫色が目立つ。紅葉は濃い赤色。



アオシダレ

オオモミジの品種で、葉は付け根まで完全に切れ込んだ複雑な形。枝は垂れ下がる。



カジカエデ

カナダ国旗の葉（サトウカエデ）に似た大きな葉が特徴。名前はカジノキの葉に似ていることが由来。



メグスリノキ

山地に生えるカエデで、樹皮を煎じた汁を目の薬に使うことが名前の由来。葉は3枚セットで毛が多い。



ハナノキ

春に咲く花の赤いおしべが目立つことからこの名がある。葉は浅く3つに切れ込み、裏は白っぽい。

おまけ



もみじ柄のタイル

「もみじ谷」に、もみじ柄のタイルが4箇所あります。ぜひ探してみてください♪

日本人初のランドスケープデザイナー「長岡安平」



長岡安平は、明治から大正にかけて活躍した造園家です。

公園黎明期にその基礎を築き「公園かくあるべき」と確固たる信念のもとに、旧来にとらわれない独自の発想で、これまでにない、庶民が等しく豊かな緑と触れ合える場を創り出しました。

彼が手掛けた都内の景観は、関東大震災や戦災などの影響を受け、当時の面影が今も残るのは「芝公園もみじ谷の紅葉滝」が唯一です。

～もみじ谷以外の紅葉・黄葉の見どころ情報～



ハゼノキ

ウルシ科の落葉樹。江戸時代から昭和初期までは、この果実から蠟を採取し、和蠟燭や鬢付け油などに用いた。港区役所前に紅葉の見事なハゼノキがある。



イチョウ

東京都の木。雌雄異株で、銀杏がなるのは雌木のみ。右の写真は4号地にある「戦災イチョウ」。昭和20年5月25日、太平洋戦争東京大空襲で被災しながらも、遅く命をつなぎ、黒く焼けた幹を包み込んで巨木となり、平和の象徴となっている。



トウカエデ

「トウカエデ」は唐(中国)の楓という意味。江戸時代(享保9年)に中国から徳川幕府に寄贈されたのが始まり。